

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	21-023	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Association between alcohol consumption status and obesity-related comorbidities in men: data from the 2016 Korean community health survey 男性のアルコール摂取状況と肥満関連合併症との関連性：2016年韓国における地域健康調査から		
<b>執筆者</b>		
Kim BY, Nam H, Yoo JJ, Cho YY, Choi DH, Jung CH, Mok JO, Kim CH.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public health 2021,21:733 doi: 10.1186/s12889-021-10776-y		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、糖尿病、脂質異常症、高血圧症、肥満、アンケート調査		33858402
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>本研究は、韓国人男性におけるアルコール摂取量または過剰飲酒と肥満に関連する合併症との関連を調査するために行われた。</p> <p><b>方法：</b>2016年韓国地域健康調査 (KCHS) における、19歳以上の男性 103,048人を本研究の対象とした。KCHSより、飲酒量 (1日量、頻度)、高血圧/糖尿病/脂質異常症/肥満 (BMI25以上)有無のデータを使用した。1週間あたりのアルコール摂取量により対象者を5グループ (0, 0-6, 7-14, 14-28, ≥28 drink/週)に分類した。また、1回平均飲酒量が7 drink以上の者を過剰飲酒者と定義した。なお、1drinkはアルコール7-10gとした。アルコール摂取による肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症の有病オッズ比 (OR)および95%信頼区間 (CI)を多重二項ロジスティック回帰分析により算出した。なお、年齢、運動量、喫煙状況、教育歴、世帯収入、精神的問題およびBMIを調整因子として用いた。</p> <p><b>結果：</b>全参加者のうち、20.7%が高アルコール摂取群 (28 drink/週以上)であった。非飲酒群 (0 drink/週)と比較し、高アルコール摂取群は、肥満 (OR, 1.449; 95%CI, 1.412-1.591)、高血圧 (OR, 1.76; 95%CI, 1.636-1.894) および脂質異常症 (OR, 1.356; 95%CI, 1.247-1.474) であるリスクが有意に高かった。一方、糖尿病有病リスクは、非飲酒群に比べ、軽度 (7-14 drink/週; OR, 0.874; 95%CI, 0.777-0.983)、中等度 (14-28 drink/週; OR, 0.799; 95%CI, 0.726-0.88) アルコール摂取群で低く、高アルコール摂取群では有意な増加を認めなかった (OR, 0.945; 95%CI, 0.86-1.039)。機会飲酒者を除く過剰飲酒者では、肥満 (OR, 1.424; 95%CI, 1.315-1.53)、高血圧 (OR, 1.133; 95%CI, 1.01-1.201)、糖尿病 (OR, 1.189; 95%CI, 1.11-1.342)、脂質異常症 (OR, 1.199; 95%CI, 1.089-1.294) の有病リスクの増加と有意に関連した。</p> <p><b>結論：</b>韓国人男性において、高アルコール摂取は、肥満、高血圧、脂質異常症の有病リスクが高かった。また、過剰飲酒者は非過剰飲酒者よりも、肥満、高血圧、脂質異常症および糖尿病のリスクが高かった。高アルコール摂取、過剰飲酒は、肥満関連疾患に悪影響を及ぼす可能性が示唆された。</p>		